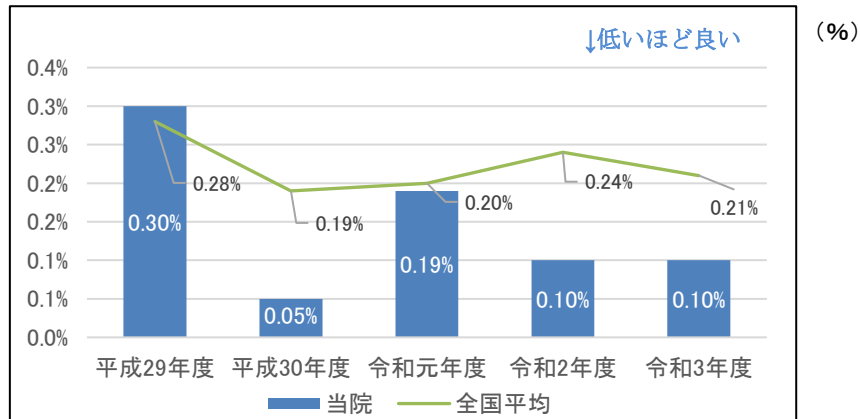


23-2 手術あり患者の肺塞栓症の発生率

○項目の解説

「項目23-1 手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率」と同様に、肺塞栓症予防に対する病院全体の取り組みの結果を表現する指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院は、手術室内での手術件数において、100床あたりの手術件数が、全国の国立大学病院全体においてもトップクラスに位置しておりますが、安全に手術を行うため、適切に肺血栓塞栓症の発症リスクを評価していることから、手術を実施した患者さんの肺塞栓症の発生率も国立大学病院の全国平均より低い状況を維持しております。

当院における、院内の肺血栓・深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防については、原則的に『肺血栓・深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン（Japanese Guideline for Prevention of Venous Thromboembolism）』に準拠して実施していることもあり、肺塞栓症の発生率が低い推移を維持しているのだと考えております。また、院内に肺塞栓症対策チームがあり、肺血栓塞栓症の診断・治療に対して、積極的に関与し重症化の防止に努めています。

○定義

DPC データを元に算出した、肺塞栓症リスクの高い患者に対する、肺塞栓症の発生率 (%) です。

○算式

分子：危険因子手術を行い、かつ、続発症として肺塞栓症を発症した患者数

分母：危険因子手術を行った患者数